

教育課程研究指定校事業実施計画書（平成28年度）
 — 研究課題 2（4）ESD —

都道府県・指定都市番号	5	都道府県・指定都市名	秋田県
-------------	---	------------	-----

1 研究指定校の概要

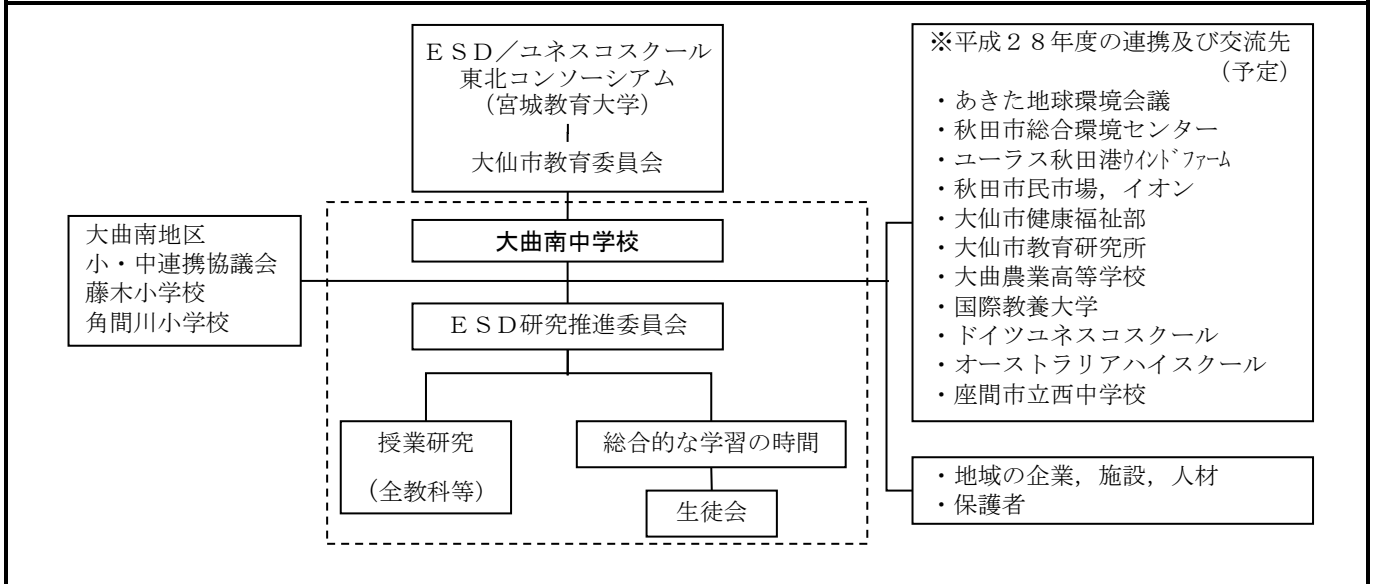
ふりがな 学校名	だいせんしりつ おおまがりみなみちゅうがっこう 大仙市立大曲南中学校				ふりがな 校長氏名	すだゆりこ 須田百合子
所在地	〒014-1412 秋田県大仙市藤木字上野中 70 番地 2 電話 0187-65-2001 FAX 0187-65-2051 E-mail om-minamityu@edu.city.daisen.akita.jp					
(H28.4.1 見込)	1 年	2 年	3 年	計	(H28. 4. 1 見込。 臨時的任用の者は常勤の者のみ含む)	
学級数	3	1	1	5	教員数 14 名	
生徒数	23	31	27	81		
特記事項	1 年生は、3 学級のうち特別支援学級が 2 学級である。					

2 研究主題等

学校における研究主題	持続可能な社会に向けた人づくりを目指した 問題解決的な学習を中心とする全教育活動における指導方法等の工夫改善
研究主題設定の理由	<p>本校は、平成22年度にユネスコスクールに認定され、環境教育を中心にESDの視点を取り入れた教育活動を展開している。その中で、近隣の小学校、高等学校、関係機関、地域等との「交流と連携」を充実させながら、「考え、行動する環境教育」を目指している。平成27年度は、大学や海外のユネスコスクールとの交流にも取り組み、更なる深化・充実を図っているところである。また、各学年における総合的な学習の時間の柱として、「食育」「エネルギー教育」「国際教育」を位置付け、体験を通じた思考力・判断力・表現力等の育成を重点とし、「社会的実践力」を育むことで、「生きる力」の育成に資することを目指している。</p> <p>本校では、ESDの目的を、「持続可能な社会に向けた人づくり」と位置付け、具体的な取組としてESDを進めるには、教科間、教員間の連携がそのための大前提であると捉えている。そこで、全教育活動を通してESDの視点に立った問題解決的な学習を展開し、「人」「教材」「能力・態度」のつながりを意識した指導の工夫を図り、持続可能な社会の形成者としてふさわしい資質や価値観をもった生徒を育成したいと考え、本研究主題を設定した。</p>
研究の内容	<p>①全教育活動を通じた「コミュニケーション能力」の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な人との「関わり」や「つながり」を大事にしながら、他者を理解した上で自己の存在を見つめ、思考したり、他者と協調したりするなど、協働が図られる機会や活動の場を意図的、計画的に設定する。 「受信→思考→発信」のサイクルに基づいた「問い」を発することができる生徒を育成するために、各教科等における言語活動の一層の充実を図る。 <p>②各教科等における「批判的に考える力」や「多面的・総合的に考える力」の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題解決的な学習の中で、様々な情報を基に他者の考えと自分の考えとを比べて吟味したり確信をもったりしたりしながら自分の考えを再構築する「比較・検討を中心とした学び合い」を重視する。 「まとめ」や「振り返り」の中で、学んだことを発信させる機会を設定し、受け手からの共感や異なる考えを得ることで、自己の考えを深めさせる。 ESDカレンダーを改善し、各教科等で育成すべき能力・態度のつながりを明確にする。 <p>③総合的な学習の時間における「自ら考え行動しようとする態度」の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学年テーマである「食育」「エネルギー教育」「国際教育」において、探究的な学習を通して態度形成につながるような単元計画を立てて実践する。

	<p>④異校種や地域、関係機関との「交流と連携」の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアムにおける宮城教育大学との連携や国際教養大学、ドイツのユネスコスクール等との交流による教育活動を充実させ、ローカルでの学びの成果をグローバルな視点で捉えようとする態度を育成する。 ・ 学区内の小学校と ESD の視点で育みたい能力・態度を共有し、「目指す姿」「学び方」における 9 年間の系統性を踏まえた連携を充実させながら、小・中学校の円滑な接続を図る。
--	--

3 研究体制等



4 研究計画

	実施時期	研究内容, 研究方法, 成果の公開等	期待される成果等
一年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・ ESD研究推進委員会の設置 ・ ESDカレンダーの見直しと改善 ・ 大曲南地区小・中連携協議会開催 (年3回) ・ 保護者, 生徒へのアンケートによる意識の把握 ・ 地域と連携した活動の実施(クリーンアップ, アルミ缶回収) ・ 食育の推進 (緑のカーテンプロジェクト, 有機肥料による野菜栽培, エコクッキング, 市場訪問等) ・ エネルギー教育の推進 (エネルギー関連施設の見学, 大仙市環境家族宣言参加等) ・ 国際教育の推進 (市内ALTによる出前授業, 国際教養大学訪問, ドイツのユネスコスクールとのメールによる情報交換, オーストラリアのハイスクールとのスカイプでの交流等) ・ 校内授業研究会の実施 (一人一授業) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究体制の確立と研究の方向性に関する共通理解 ・ 教育活動の充実 ・ ESDの視点を生かした授業改善の推進
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校祭における各学年の総合的な学習の時間の実践発表 ・ 国際教養大学の留学生との交流による進路集会 ・ 大曲仙北教育研究会での社会科の授業公開 (ESDの視点で) ・ 大曲南地区小・中連携オープンスクールでの取組公開 ・ 県学習状況調査の分析結果からの成果と課題の把握 ・ 保護者, 生徒へのアンケートによる意識の変容の把握 ・ 中間のまとめと次年度に向けた研究計画の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間公開での成果検証 ・ 次年度への円滑な接続

二年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査の結果分析による生徒の変容の把握 ・研究内容の見直しと新たな研究計画の策定 ・大曲南地区小・中連携協議会開催（年3回） ・宮城教育大学によるESD研修会実施（小・中合同） ・校内授業研究会の実施（一人一授業） ※食育，エネルギー教育，国際教育に関する取組については，ほぼ前年度と同じ 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究の方向性の再確認 ・ESDの視点の浸透による授業の深化・充実 ・教育活動の深化・充実
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・学校祭における各学年の総合的な学習の時間の実践発表 ・国際教養大学の留学生との交流による進路集会 ・大曲南地区小・中連携オープンスクールでの授業公開 ・県学習状況調査の分析結果からの成果と課題の把握 ・保護者，生徒へのアンケートによる意識の変容の把握 ・研究の成果をまとめ，秋田県教育研究発表会で発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究成果の検証 ・研究の振り返りと発信

5 研究のまとめの見通し

本研究は，本校が継続して取り組んできた総合的な学習の時間の柱である環境教育，今年度学校経営の重点としているコミュニケーション能力の育成及び問題解決的な学習を核にした授業改善等を，「全教育活動における取組をつなげる」ことがキーワードである。したがって，新たな取組を始めるのではなく，現在の取組をESDの取組としてつなげ，充実，深化させることが肝要であると考えている。教科間，教員間が一つの目標に向かってつながること，他校や地域，関係機関等とのつながりを更に深めることで，生徒のよりよい姿，つまりESDの理念にも通じる「確かな学力」や「生きる力」が育成されるものと考えている。

また，大仙市内や秋田県内の現状においては，ESDについての認識が必ずしも十分であるとは言い難いため，本校からESDの成果を発信していくことで，大仙市内や秋田県内，ひいては全国の学校にとってESDの更なる推進につながる一助となるような研究成果を発信したいと考えている。

なお，研究成果の検証方法としては，次の点を検討している。

- ①校内授業研究会（一人一授業）や公開授業を実施し，ESDの視点を踏まえた授業について研究協議を行う。
- ②小学校と連携したオープンスクールを開催することで，県内の教員や保護者，地域に取組や授業を公開する。
- ③ESD通信の発行や学校報，学校HP等で，外部に積極的に取組や成果等を発信する。
- ④生徒アンケートや保護者アンケート，公開授業参観者等による評価を実施する。
- ⑤全国学力・学習状況調査や秋田県学習状況調査における「活用に関する問題」の正答率及び質問紙のESDに関する設問の回答を分析する。